

基本方針2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます（2）活力あふれる府立高校づくりをすすめます

【基本的方向】

- ① グローバル社会で活躍できる人材の育成やセーフティネットの整備など社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実をすすめます。
- ② キャリア教育や不登校・中途退学への対応など生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実します。
- ③ 計画的な施設整備や ICT 環境の充実により、府立高校の教育環境の整備をすすめます。
- ④ 府立高校の新たな特色に応じて、中学生にとってより一層公平でわかりやすい入学者選抜制度とします。
- ⑤ 各校の教育内容の充実を図るとともに、将来の生徒数等を勘案した効果的かつ効率的な学校配置をすすめます。

【主な取組み】

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
①	グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）の充実 （グローバルリーダーズハイスクール支援事業） ＜参考資料 P163＞	GLHS10校共同で、海外派遣研修、課題研究の発表会などを実施した。 各学校の活動実績を評価する評価審議会委員が10校の平成27年度の取組みを評価するとともに、平成28年度評価にむけて、学校訪問や校長ヒアリングを実施した。
	工科高校の充実 （実業教育充実事業） ＜参考資料 P165＞	老朽化や安全性を考慮し、設備の更新及び施設の改修を行うとともに、産業界からのニーズや学習指導要領に対応した設備を導入した。 また、平成26年4月から工科高校9校それぞれが持つ強みを生かし、人材育成を重点化した3つの型（①「高大連携重点型」、②「実践的スキル養成重点型」、③「地域産業連携重点型」）に分け、目的に応じたカリキュラムや学習プログラムを展開した。 工科高校魅力化推進プロジェクトチーム会議の開催や40本以上の動画から構成する工科高校の魅力発信ホームページの開設などを行った。
	生徒の「学び直し」等を支援する新たな学校の設置 （エンパワメントスクールの設置） ＜参考資料 P167＞	平成27年度に開校したエンパワメントスクール3校（西成高校、長吉高校、箕面東高校）及び平成28年度に開校した2校（成城高校、岬高校）については、モジュール授業やエンパワメントタイムの学習内容の充実に向けて、研修会等を通じて教員の授業力向上を図った。 また、平成29年4月に開校する布施北高校については、施設・設備の整備やプロジェクトチームの運営、中学生等へのPRを行った。 加えて、新たに2校（北淀・西淀川統合新校、和泉総合高校）の設置（平成30年4月開校予定）を決定した。

基本的方向	具体的取組名 (事業名)	実施内容
②	不登校の減少・中途退学防止の取組み (様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業) <参考資料 P 169>	中退率の高い 37 校に中退防止コーディネーターを配置し、中高連携や校内組織体制づくりを推進するとともに、全府立高校が参加する中退防止フォーラムを開催し、中退防止に効果をあげている学校の取組みを共有化した。また、中退防止担当が責任者となり、中退の多い学校に対してヒアリングを行った。 様々な課題を抱える生徒が多い府立高校(定時制課程)4校にスクールソーシャルワーカーを配置し、学校への定着を図った。
	障がいのある生徒の高校生活をサポートするための人材の配置 (障がいのある生徒の高校生活支援事業) <参考資料 P 170>	障がいのある生徒の心身のケアや支援などを行うため、全ての府立高校にエキスパート支援員としてスクールカウンセラーを配置した。 また、生徒一人ひとりの障がいの状況に応じた学校生活支援を行うため、要望があった学校に学習支援員及び介助員を配置した。
③ 【基本方針 7 基本的方向③ 及び基本方針 8 基本的方向 ①の再掲】	府立学校の老朽化対策と空調設備等の整備推進 (府立学校老朽化対策事業) <参考資料 P 238> (特別教室空気調節設備整備事業等(注)) <参考資料 P 174> (学習環境改善事業) <参考資料 P 174>	老朽化対策については、平成 27 年度に策定した「府立学校施設整備方針」に基づき、平成 28 年度より 3 か年計画で劣化度調査を実施中。 平成 28 年度は 27 校で調査を実施し、それぞれの学校において中長期保全計画と修繕実施計画を作成した。 府立学校 5 校で老朽化したエレベーターの改修工事を、府立学校 4 校で実施設計を実施した。 府立学校 8 校で外部改修工事を実施し、府立学校 4 校で外部改修に係る実施設計を実施した。 府立学校 5 校で受変電設備改修工事を実施し、4 校でエレベーター、4 校でスロープ、階段手すり設置工事等を実施した。 府立学校 5 校で老朽化が著しいトイレ設備の改修工事を実施した。 府立高校 8 校のトイレ改修工事に係る実施設計を実施した。
	公立学校施設の耐震性能向上・大規模改修 (耐震性能向上・大規模改造事業) <参考資料 P 174>	非構造部材の耐震化として、府立学校 15 校で屋内運動場、府立学校 28 校で武道場の天井・照明等の工事を実施した。 平成 29 年度に予定している府立学校 22 校の武道場の天井・照明等の工事に係る実施設計を実施した。
	府立学校の ICT ネットワークの統合 (府立学校教育 ICT 化推進事業) <参考資料 P 175>	全府立学校へ展開している統合 ICT ネットワークについて、セキュリティ対策などの安全な環境維持に努めるとともに、教職員が利用する端末機 5,500 台の更新を行い、教職員が効率的に校務業務を行うための ICT 環境を整備した。

(注) 平成 27 年度末事業終了。

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
④	入学者選抜の調査書における目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の導入 ＜参考資料 P176＞	調査書における目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）の導入に当たっては、評定の公平性を担保するため、チャレンジテストの結果を活用した府内統一ルールを導入した。
⑤	府立高校の再編整備の計画的な推進 （府立高等学校再編整備事業） ＜参考資料 P177＞	大阪府立学校条例及び大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画に基づく平成 28 年度実施対象校及び再編整備手法の案を 9 月に公表し、その後、府議会での議論や保護者等への説明を経て、11 月に決定した（エンパワメントスクールとして開校する学校 2 校（うち 1 校は統合整備による新校）、総合学科へ改編する学校 2 校（うち 1 校は統合整備による新校）、普通科専門コース設置校へ改編する学校 3 校、豊中高校の分校として改編する学校 1 校）。

【指標の点検結果】

指標	目標値 (H29 年度)	H24 年度実績値 (計画策定時)	H28 年度実績値	点検結果	
○指標 12 学校教育自己診断における 生徒の学校生活満足度	全府立学校で 70%以上を めざす (注1)	70%を上回った学校 110 校/170 校	70%を上回った学校 132 校/184 校 〔 H27 年度実績 70%を上回った学校 126 校/175 校 〕	△	平成 28 年度実績は、計画策定時の 実績を上回った。
○指標 13 府立高校卒業者の就職率 (就職者の就職希望者に 対する割合)	全国水準をめざす	93.2% (全国 : 95.8%)	95.1% (全国 : 98.0%) 〔 H27 年度実績 94.0% (全国 : 97.7%) 〕	△	平成 28 年度実績は、計画策定時の 実績を 1.9 ポイント、昨年度実績 を 1.1 ポイント上回り、全国平均 との差は 3.7 ポイントから 2.9 ポ イントに縮小した。
○指標 14 府立高校全日制課程の 生徒の中退率	全国水準をめざす	1.8% (全国 : 1.0%)	H27 年度実績 1.5% (全国 : 0.8%) 〔 H26 年度実績 1.5% (全国 : 0.9%) 〕 ※H28 年度実績は H29 秋以降 に公表予定	△	平成 27 年度実績は、計画策定時の 実績を 0.3 ポイント改善し、全国 平均との差も 0.8 ポイントから 0.7 ポイントに縮小した。
○指標 15 進路実現率	グローバルリーダーズ ハイスクールにおける現 役での大学進学率を向上 させる	グローバルリーダーズ ハイスクールにおける大 学進学率 現役進学率 : 60.6%	グローバルリーダーズ ハイスクールにおける大学 進学率 現役進学率 : 67.6% 〔H27 年度実績 66.5%〕	○	平成 28 年度実績は、計画策定時の 実績を 7.0 ポイント上回った。
	工科高校における高度職 業資格取得者数について 300 名をめざす (注2)	工科高校における高度職 業資格取得者数 150 名	工科高校における高度職業 資格取得者数 204 名 〔H27 年度実績 210 名〕	△	平成 28 年度実績は、計画策定時の 実績を 54 名上回った。

(注1) 一部の支援学校については児童・生徒の状況を踏まえて診断項目を設定しているため、学校生活満足度を測る項目についての調査を実施していないことから、「全府立学校」には一部支援学校を含
まない。

(注2) 「高度職業資格取得者」とは、旋盤など技能士検定 (国家検定) 等の取得者を示す。

【自己評価】

- ① グローバル社会で活躍できる人材の育成やセーフティネットの整備など、社会の変化やニーズを踏まえた府立高校の充実をすすめます。
- ・グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）や国際関係学科の設置など府立高校の充実を進めた結果、学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度は上昇したが、全府立学校で生徒の学校生活満足度 70%以上をめざすという目標の達成に向けて、PDCA サイクルを更に強化するなどにより一層の取組みが必要である。
 - ・グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）については、各校が教員の授業力向上や進路指導の充実に努めるとともに、学習合宿や進学講習に取り組んだ結果、現役での大学進学率の向上という目標を達成し、指定した 10 校において大学進学実績で成果をあげた。
 - ・工科高校については、高度な職業資格取得に対応した学習内容の充実を図った結果、高度職業資格取得者数が増加したが、目標値とは隔たりがある。今後、生徒の進路希望の実現に向け、理工系大学への進学の推進や高度な資格取得を図るとともに、地域産業との連携について、企業等連携による実践的スキル育成事業を活用するなどより一層の取組みが必要である。
- また、工科高校の魅力を発信したことにより、志願者数の増加がみられた。今後、ホームページやリーフレットを有効に活用するとともに、就職だけではなく進学実績をアピールするなど、中学生、保護者や中学校教員に工科高校の魅力を一層発信していく。
- ② キャリア教育や不登校・中途退学への対応など生徒一人ひとりの自立を支える教育を充実します。
- ・キャリア教育については、公立・私立高校卒業者の就職率が、全国平均に比べると依然低位にあり目標に達していない。平成 26 年度から取り組んでいる「キャリア教育支援体制整備事業」においては、就職支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカーを配置した対象校で就職希望者が増加するとともに、平成 28 年度の就職内定率が平成 27 年度と比較して 2.3 ポイント上昇し、進路未定者においても 3 年連続で減少した。これは、キャリア教育の取組みにより、生徒の就労意欲を高めることで就職希望者がより明確な職業イメージを持ち、粘り強く最後まで取り組んだ結果によるものである。「キャリア教育支援体制整備事業」は平成 28 年度で終了したが、今後は、この事業により構築した校内体制及び就職支援に関する情報・経験を有効活用していく。【基本方針 2（1）基本的方向③再掲】
 - ・中途退学については、平成 27 年度の府立高校全日制課程の生徒の中退率は、前年度と同様横ばいとなり、全国との差については 0.1 ポイント広がり、目標には達していない。不登校・中途退学への対応については、高校中退防止コーディネーターの配置や各校の取組みの共有化を行うとともに、さらに平成 26 年度から全ての府立高校の入学生に対して実施している「高校生活支援カード」により、高校生活に不安を感じている生徒や不登校の経験がある生徒を把握し早期から支援を行う等、各学校の状況に応じた取組みを進めている。また、スクールカウンセラー等の外部人材とも連携し、平成 28 年度には、教育庁内の中途退学担当が責任者となり、各校の置かれている個別の状況と課題について聞き取りをした。今後、福祉部等の関係部署と連携する体制を充実していく。

③ 計画的な施設整備やICT環境の充実により、府立高校の教育環境の整備をすすめます。

・府立学校の施設整備については、非構造部材の耐震化を計画的に実施し、地震発生時における生徒・教職員の安全確保を進めた。また、非構造部材の耐震化（照明器具等落下防止対策）については、平成27年度末に完了を目標としていたが遅れており、屋内運動場等の工事と来年度の工事に向けた実施設計を行い、平成30年度末完了する予定である。

さらに、トイレ設備の改修工事についても実施計画を策定し、良好な学習環境の整備を進める。

・府立学校の老朽化対策については、平成28年3月に実施方針（府立学校施設整備方針）を策定し、平成28年度以降、この方針に基づき3か年で建物の劣化度調査を行い、中長期保全計画及び修繕実施計画を作成する。【基本方針8 基本的方向①の再掲】

・全府立学校へ展開している統合ICTネットワークについて、セキュリティー対策などの安全な環境維持に努めるとともに、教職員が利用する端末機5,500台の更新を行った。引き続き、教職員が効率的に校務業務を行うためICT環境を整備していく。【基本方針7 基本的方向③の再掲】

・長期入院している生徒等への学習支援として、4校でICTを用いた「遠隔授業サポートシステム」を確立し、学校の授業に双方向の通信で参加することができ、学習の遅れを取り戻すこと等の支援となった。引き続き、登校（復帰）後も学業にスムーズに接続できる体制の構築を支援していく。

④ 府立高校の新たな特色に応じて、中学生にとってより一層公平でわかりやすい入学者選抜制度とします。

・府内統一ルール運用状況について、市町村教育委員会を通して調査を行ったところ、すべての中学校で作成された調査書評定が、府内統一ルールで定める範囲に収まっていることを確認した。

・平成28年10月及び平成29年1月の文部科学省からの通知をふまえ、平成30年度入学者選抜より、インフルエンザ等罹患者に対し、これまでの別室受験に加えて、追学力検査を実施することを含め検討する。

- ⑤ 各校の教育内容の充実を図るとともに、将来の生徒数等を勘案した効果的かつ効率的な学校配置をすすめます。
- 府立高校の再編整備については、平成 25 年 11 月に策定した「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」に基づき、平成 28 年度にはエンパワメントスクール 2 校（成城、岬）を開校し、普通科総合選択制高校 4 校（豊島、北かわち皐が丘、みどり清朋、懐風館）を普通科専門コース設置校に改編した。また、平成 29 年度入学者選抜より 1 校（西淀川）の募集停止を行うとともに、平成 29 年度からのエンパワメントスクール 1 校（布施北）の開校と普通科総合選択制高校 5 校（門真なみはや、伯太を総合学科に、東淀川、かわち野、りんくう翔南を普通科専門コース設置校に）の改編に向けて、教育内容や施設・設備に係る準備を行った。
 - 平成 27・28 年度に開校したエンパワメントスクール 5 校においては、基礎学力の充実のための「30 分モジュール授業」や社会で活躍する力を身につける「エンパワメントタイム」の実施などにより、「勉強がわかるようになった」と感じている生徒が増え、生徒の欠席回数及び遅刻回数とも改編前年度と比較して約 5 割減少した。今後も、教育内容の一層の充実に向けて、各校教科担当者の連絡会や研修会を定期的実施していく。
 - 平成 28 年度に再編整備を決定し、平成 30 年度に開校・改編する 8 校（北淀・西淀川統合新校、泉尾・大正統合新校、和泉総合、成美、北摂つばさ、緑風冠、金剛、豊中高校の能勢分校）については、改編等に向けた検討や準備を進めた。引き続き、活力ある学校づくりと教育内容の充実に向けて、再編整備を進めていく。

【評価審議会における審議結果】

○府の点検及び評価結果は概ね妥当である。

【基本的方向①について】

- ・「進路実現率（指標15）」について、工科高校の高度職業資格取得者数の指標を見直すことも検討が必要ではないか。また、身近な目標設定と達成感を得る経験を増やすため、資格取得については、簡単に取れるものからステップアップしていく方法も示してみるなど、取得者数が伸び悩む原因の分析や指標を見直すとともに、取得を進める方法の検討も課題である。
- ・エンパワメントスクールでモジュール授業の取組み等により成果が出てきており、評価できる。また、学習障がいや文字の認識や言葉の理解が困難な生徒に対しても効果的な取組みだと思われる。高等学校にも、この様な点に困難を感じている生徒がいるので、生徒の特性や学ぶ上での困難さに焦点を当てて、こういった授業を効果的に取り入れてほしい。

【基本的方向②について】

- ・「府立高校全日課程の生徒の中退率（指標14）」について、早期発見や中高接続で情報共有を強化していくことで、中退の未然防止につながるのではないかと。育成支援チームの効果が見られた事例を共有し、こうした取組みが中退率の減少につながったということを示していく必要がある。
- ・生活満足度（指標12）が低く伸び悩んでいる要因は、ハード面にあるのか、ソフト面にあるのか、今後の改善に向けて分析が必要である。後期計画を見据えては、授業改善について、中高接続、高大接続の視点から、「主体的、対話的で深い学び」の実践について、ますます高校での授業の質が問われてくることになるので、こうしたソフト面で、学校の努力がどう生徒の満足度を高めたかということを示すべき。
- ・「府立高校卒業者の就職率（指標13）」については、学校現場で随分と努力をされていると感じる。さらに上昇させるには、企業開拓や子どもの特성에応じて丁寧に指導するなど日頃からのキャリア教育の視点も必要である。

【基本的方向③について】

- ・「在宅等で学習する生徒へのICTを活用した支援（具体的取組46）」について、長期入院している生徒等への学習支援は、充実させてほしい。ICTを活用した遠隔教育については、病気で入院している子どもに関しては、不登校の子どもに対応と同じく、出席として対応し単位認定することができるとの文部科学省からの通知もあり、引き続き取り組むべき。

【基本的方向④について】

- ・チャレンジテストの実施については、子どものやる気を教員、保護者等、大人全体で支えるような取組みをお願いしたい。

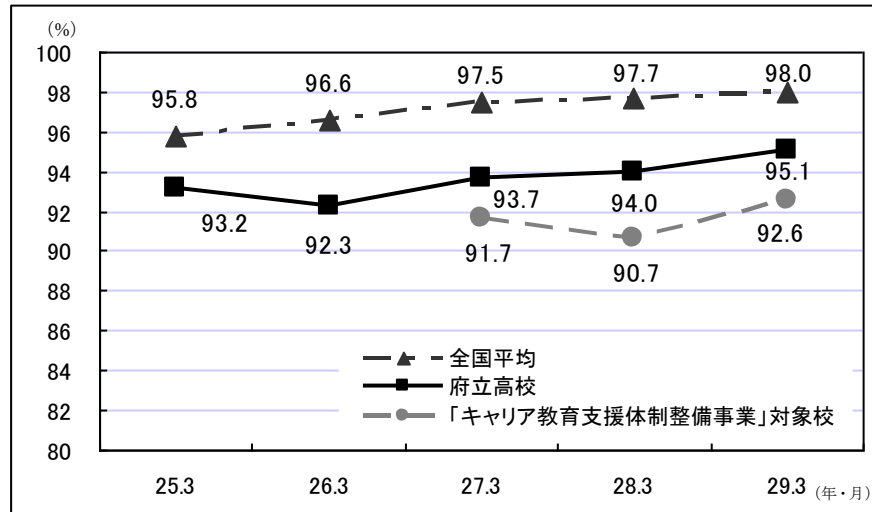
○補足意見

【基本的方向①について】

- ・「学校教育自己診断における生徒の学校生活満足度（指標12）」について、満足度70%以上の数値はむしろ評価できるのではないか。ソフト面の強化について、GLHS や工科高校、国際関係学科等、様々な取組みが実施されているのはとても評価できる。ただ、特色ある学校の生徒の満足度は高いけれど、全体ではあまり高くないという課題がある。全ての学校で70%をめざすというのであれば、一部の生徒への手当てが手厚いだけでなく、GLHS に準じた制度を作る等、できるだけ多くの子どもたちが恩恵を受けることができるように、今後、具体的取組を見直す際には検討してもらいたい。

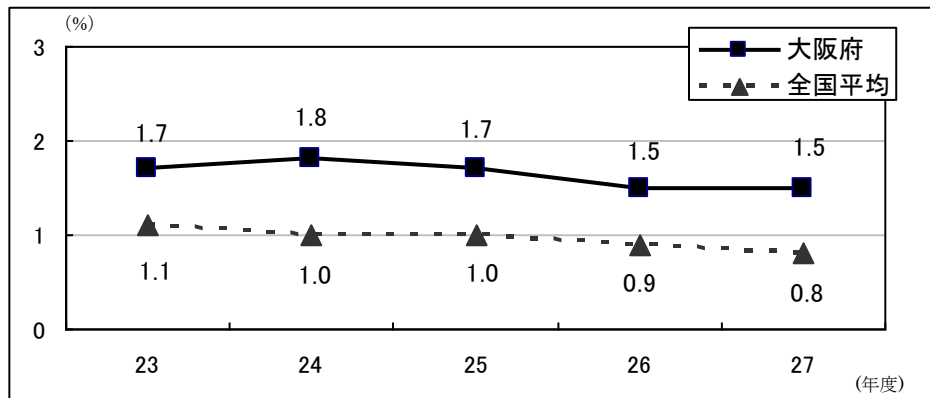
(参考)

◆指標13 府立高校卒業者の就職率（就職者の就職希望者に対する割合）



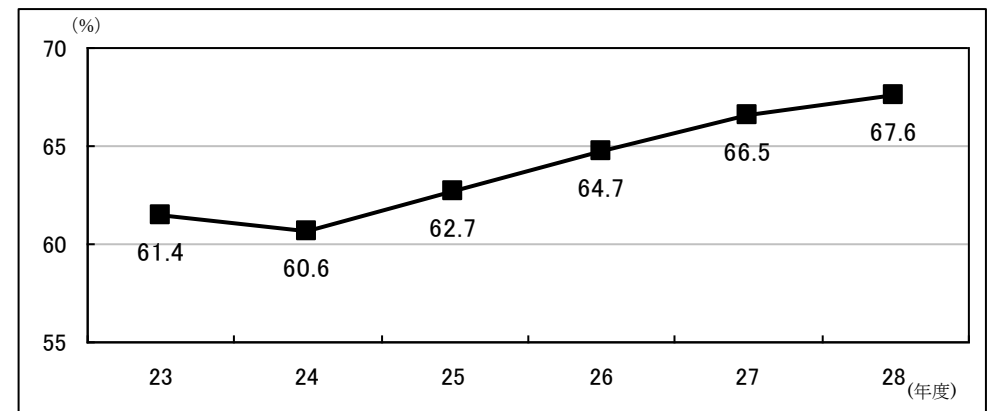
※府教育庁調べ及び文部科学省「高等学校卒業者の就職状況調査」
 ※「キャリア教育支援体制整備事業」
 対象校 37校（府立高校 32校、私立高校 5校 ※H28年度）

◆指標14 府立高校全日課程の生徒の中退率



※府教育庁調べ及び文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

◆指標15 グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）における大学進学率（現役進学率）



※府教育庁調べ
 ※GLHS：グローバル社会をリードする人材の育成をめざして教育活動を行う府教育委員会が指定した学校 10校（H26年度末時点）